

## 6 謎解き文献学 原文と解説で読み解く文献資料の愉しみ

人文学を構成する哲学・歴史学・文学の研究に共通する課題として、文献や資料に書かれた内容を正しく解釈することがあります。この講座では、外国語やくずし字で書かれた文献資料を対象として、翻訳・翻刻を参照しつつ一般の方にも分かりやすいように解説し、文献を正しく読むことの愉しさが伝わるような講義を展開します。予備知識は必要ありませんので、一緒に勉強しましょう。

<b>会場</b>	対面：サテライトキャンパスひろしま（広島県民文化センター5F） ※コロナの感染状況により中止にすることがあります。
<b>時間</b>	①13:00～14:30 ②14:40～16:10
<b>定員</b>	対面：50名
<b>対象</b>	どなたでも
<b>受講料</b>	無料
<b>申込方法</b>	郵送・Web
<b>申込期限</b>	一次申込締切 9/9（金）※定員に達しなければ11/24（木）（必着）まで先着順で受付

### キリスト教宣教師の日本語学習

第1回

12/3（土）

13:00～14:30

講師：人間社会科学研究科 准教授 白井 純

大航海時代の16世紀に日本で宣教活動を行ったイエズス会宣教師たちが日本語の勉強のため用いたのは、皆さんもご存知の『平家物語』でした。でも、なぜ『平家物語』なのか。その謎を解きながら、当時の日本語の姿を探ってみましょう。

### 五十音図の物語

第2回

12/3（土）

14:40～16:10

講師：人間社会科学研究科 准教授 川村 悠人

私たち日本人が幼い頃から慣れ親しんできた五十音図。その起源の一つは古代インドの言語、サンスクリット語（梵語）にあります。本講義では、文献、碑文、図像といった一次資料を用いながら、音たちが紡いでいった物語を見ていきたいと思えます。

### 「春暁」のエロティックス

第3回

12/17（土）

13:00～14:30

講師：人間社会科学研究科 准教授 陳 翀

殆ど知られていませんが、「春眠暁を覚えず」という名句は、実は近世までエロティックな詩として読まれていました。今回は、中国語の平仄・発音を学びながら、唐詩としての「春暁」の本来の詩意を楽しんでみましょう。

## 中世の芸術論を読む

第4回  
12/17 (土)

14:40~16:10

講師：人間社会科学研究科 助教 高尾 祐太

日本の文化を知るためには、中世の思想を探ることが不可欠です。しかし、仏教の思考を駆使して展開される当時の思想は難解で、現代の我々には馴染みの薄いものです。難しいけれども大事な中世の思想。本講義では連歌師心敬の連歌論書（『ささめごと』等）を中心に、世阿弥の能楽論書なども取り上げつつ、言葉と世界をめぐる彼らの思索を辿ってゆくことで、そんな中世の思想の一端に迫ってゆきます。

## 古文書からみる激動の幕末政治

第5回  
12/24 (土)

14:40~16:10

講師：人間社会科学研究科 准教授 奈良 勝司

幕末には、激動する政局のなかで人々は最新の正確な情報を求めるようになり、大名や個人のあいだで風説留・探索書などと呼ばれる情報記録集が数多く作られました。そのなかには、著名な人物が関与した非常に精度の高いものもありました。今回はその一つをとりあげて、崩し字史料を解読する面白さと、知られざる幕末政治の一端を紹介したいと思います。

講座内容に関する  
お問い合わせ先

人文社会科学系支援室（文学支援室）

電話：082-424-6602      メール [bun-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:bun-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp)